



同じ釜の飯を食った仲間

朝、昼、晩の食事にも意味がある。

今の日本では一日三回、朝、昼、晩、と、食事をする。

時間もだいたい決まっている家が多い。

家族は、一日の初め、朝ごはんを顔をあわせる。

まだねむい人もいるかもしれないけど、お互いに元気な顔を見せ合って、

今日も一日がんばろう、という気持ちになる。

忙しくてバラバラに食べることもあるけれど、

そういう「朝ごはんの気持ち」は変わらない。



昼は会社や学校などで、そして夜はまた家族そろって、

いろんなことを話しながら、楽しく食事をする。

「同じ釜の飯を食う」ということばがある通り、食事は、

人と人との心を結びつける、大切で素晴らしい役目をはたしている。

※「同じ釜の飯を食う」…ある程度、長い期間を一緒に暮らし、いろいろな苦労などを共にした場合、親しい仲間であることを言う時に使うことば。「同じ釜」という意味は、生活する場（寝起き）が同じで、一つの釜（かま）で炊いたごはんを、分け合って食べるという意味で、他人どうしが、家族のように、毎日と一緒に過ごし、苦しいことや、楽しいことを共に感じて過ごすということで、とても親しい間柄（関係）のことを言うようです。

これは、5日(水)の給食時間の放送でみなさんに聞いてもらった詩です。

今年度の給食も、3年生は今日で終了です。楽しく和やかに過ごした給食時間を胸に、4月からはバランスのよい弁当を食べて、自分の健康を自分の手で守ってってください。1・2年生はあと8回となりました。これからも、同じクラスの仲間と一緒に食事をする時を大切にしてくださいね。

給食場では、可能な限り手作りを心がけています。手をかけて作った料理は、食べる人の琴線に触れることができると信じているからです。学校給食で「手をかける」とは、調理員さんの奮闘が不可欠で、上手に作れた、少し失敗してしまった、返ってきた食缶の様子や生徒のみなさんからかけてもらった言葉などから一喜一憂しながらモチベーションを上げる大忙しの毎日です。

みそ汁のだしは、伊吹産のいりこで丁寧に作っています。上手にいりこのだしが引き出せると、「香川県民でよかった」と思わせる香りがあふれ出します。ドライカレーの日は、にんにくやしょうが、カレー粉の香りが校舎を包み始めると、給食を心待ちにしてくれている生徒のみなさんの顔が思い浮かびます。

好き嫌いせず、いろいろな料理に興味を持ち、何でも食べて心豊かに育ってほしいと願っています。そして、生徒のみなさんが大人になり、いりこだしやカレーの香りに触れた際、ふと学校給食を思い起こすかもしれません。

詫間中学校の学校給食がみなさんにとって良い記憶となりますように・・・☆